

## 知事との県民対話集会（駒ヶ根市）概要

- ・開催日時 令和5年8月29日（火） 午前10時30分から正午まで
- ・会場 駒ヶ根市役所 2階大会議室
- ・参加者 県民55名、伊藤駒ヶ根市長、阿部知事、布山上伊那地域振興局長
- ・テーマ 若者・女性に選ばれるまちづくり

### ・主な発言（要旨）

#### 【参加者】

・大学進学で東京に出た後、駒ヶ根にUターンした。駒ヶ根市の魅力や課題は、移住者の方がよく見えていると感じる場面が多い。課題に対する改善策の引き出しも多い。また、市民団体に活動する方々はご年配の方が多く、活動を引き継いでいく担い手がない。今の若い世代は、やりがいや居場所に重きを置く人も多く、求めているものはお互いで補いあえるのに交流の場がない状況にある。

・市や県には、移住者と地元の人、若い人と年配の人とのハブの役割を担ってほしいと思う。

#### 【知事】

・世代間や移住者と地元の人との間のハブの役割は必要であると思うが、広域自治体である県ではアプローチがしづらいところがある。実際のつながりをどのようにつくっていくかは地域ごとに状況が異なると思う。大きな方向性は共有し、そうした取組を市町村や地域にどのように促していくかは考えていきたい。

#### 【参加者】

・農業を営む中で、生産過程で発生する破棄野菜や規格外の野菜の有効活用に取り組んでいる。商品化するまでにコストがかかるため、事業として社会課題を解決する上では、スタートアップ支援の充実を期待する。

・農業が若い人たちに選ばれることは少なく、そもそも農業のことを知らない人が多いと感じる。農業において若者や女性に選ばれるまちにするためには、農業をずっと続けていける基盤をつくらなくてはならない。そうした意味で金銭面以外での支援が重要であると思う。様々なセミナーの開催が必要であるし、スタートアップに対する地域の協力や小規模事業者への支援などが薄いと感ずるため、若い方が挑戦できるような環境をまち全体で応援し、サポートするような体制があればよいと思う。

#### 【知事】

・稼げる農業にしていくには、農業と周辺の産業でいかに付加価値をつけられるかが重要だと思う。県でもスタートアップ支援を行っているが、長野県の地域産業をどうつなげていくかという視点を持つ必要がある、一番可能性があるのは農業関係のスタートアップだと思うので検討していきたい。

・農業が若者から選ばれない理由として、まず、大都市で生まれ育った若者には農業を職業として選択肢にないことがある。また、県内の子どもたちに農業にネガティブなイメージを持たれている部分があると思う。もちろん大変な仕事であると思うが、農業に従事している方には、プラスの面を若い世代に伝えてほしいと考えている。また、農業高校卒業後に農業に従事する人が少ないのが現状であり、どうしていくかは高校再編の重要なテーマでもある。

#### 【参加者】

・経営者として、若い社員のやりたいことを積極的に取り入れることを心掛けている。駒ヶ根のポテンシャルを活かし、日本一の滞在型リゾート地にしたい。その中で、環境的な配慮は必要だと思うものの、許認可がなかなか下りないことをネックに感じる。

#### 【知事】

・規制に関しては、個別法のめざす姿は是認しつつも、地域全体の利活用を考える上で、杓子定規に規制してばかりではなく柔軟にできないかというのが、多くの人の感覚ではないか。本県においては、特に観光面で規制の課題があると思っている。その意味で観光を切り口に規制改革を検討することが問題提起につながると思うので、よく考えたい。

**【参加者】**

- ・看護大学のまちづくりサークルで活動している。地域の人と1対1でつながることを大事にしており、そのつながりが、回りまわってまちづくりにつながっていけばよいと思う。
- ・まちづくりに関して、人それぞれ異なる価値観を持っており、一つの正解としてまとめるのは難しい。多様な人たちが意見交換する場があることがまちづくりにつながっていくのではないかと。一人一人が意見を持って発信し、お互いに助け合い、理解し合いながら進んでいくことが全ての人々のウェルビーイングを実現するために必要であると思う。

**【知事】**

- ・大学生や高校生が地域とつながることで、強制される学びではなく、自分たちで地域のことに関心を持って、様々なことを学べると思う。
- ・多様性を尊重できる社会を目指している。県の総合計画でも「女性・若者に選ばれるまちづくり」と行政の押しつけではなく「選ばれる」と受身の表現にしている。社会のありようを一律に決めつけることのないよう県政を進めていきたい。
- ・若い人たちは社会貢献したいという思いを持つ人が多いと思うが、そのことが政治や民主主義とつながっていないと感じる。若い皆さんも一人一人が意見を持ち、声を上げることが大事だと思う。

**【参加者】**

- ・青年海外協力隊員として活動し、現在は、駒ヶ根ふるさと家の管理運営をしている。子どもたちの原体験の機会、知らなかったことを知って視野を広げることやゼロからイチにする機会を大事にしている。
- ・青年海外協力隊の訓練生のOB、OGの方に駒ヶ根市の印象を尋ねると、お世話になった方と今でもつながりがあることなどに愛着を持ち、ポジティブな印象を持っている反面、地域との交流が少なく、地域に受け入れられているのか不安に感じたという方も多かった。訓練生を地域が受け入れている雰囲気を出していただくとともに、帰国隊員向けに地元企業への就職等のサポートがあるとありがたいと思う。

**【知事】**

- ・社会全体で世界とつながることが重要になってきている中で、JICAで活躍された皆さんが国内で活躍しきれないのは大きな損失だと思う。駒ヶ根訓練所卒業生の優先採用は難しいと思うが、一定の海外経験者の採用を促進することなどはできるかもしれない。
- ・人を引きつける地域にしていく上で大事なのは教育と医療だと思う。教育改革も進めていくが、子どもたちの自然体験ができる場として信州やまほいくや山村留学のほか、サマースクールなどにも取り組んで全国から人を受け入れていきたい。

**【参加者】**

- ・子どもたちに主体性を持ってもらえるような教育を進めてほしい。
- ・将来、若者が県外の大学に通う際に、リニアで通学できるようなまちづくりを検討してほしい。

**【参加者】**

- ・リニアや飯田線など、伊那谷（上伊那・下伊那の計22市町村）を一つのブロックとして取りまとめてほしい。

**【知事】**

- ・保護者や地域、経済界、市町村などの皆さんと一緒に教育改革をしていきたいと考えている。信州学び円卓会議は、地域でも意見交換会を開催する予定なので、ぜひご意見をいただきたい。
- ・大学が少ないのは長野県の課題。高等教育機関の誘致とともに、リニアを使って利便性を高めることも含め考えていきたい。

**【参加者】**

- ・不登校特例校を県でつくっていくのか、見解を伺いたい。

**【参加者】**

- ・上伊那は南北に長いので、上伊那技術新校は南部と北部に1校ずつ設置してほしい。

**【知事】**

- ・不登校特例校と夜間中学については、教育委員会で検討しているところ。
- ・高校再編の配置のあり方は、単に統合するだけでなく、特色ある県立高校づくり懇談会で特色づくりを進めていく。また、通学が不便という話をよくいただくので、公共交通を含めて移動や空き時間をどうするか地域の皆さんと考えていきたい。

**【参加者】**

・フリースクールが県の助成を受けられるようになることには期待している。不登校の先の引きこもり、8050問題は大きな問題。8050家族会を結成し月に1回活動している。

**【参加者】**

・8050問題の活動をしている。社会の悲しいことやうまくいかないことから学ぶ文化をつくっていくことが重要であり、市や県が、人が人に学ぶコンパッション都市になったらよいと思う。

**【参加者】**

・不登校や発達障がいへの支援には、子どもを支える母親の心のケアも重要。

**【知事】**

・フリースクールの認証制度は来年度から始めていきたいと考えているが、子どもたちの学びの選択肢を増やしていくためにしっかり取り組んでいきたい。

・行政が対応できない部分を、家族会や関係者が取り組んでくれているのはありがたいことだと思っている。当事者の皆さんと行政とが日常からどのようにつながっていけるかは重要であり、考えていきたい。